

早いもので2023年も半ばを過ぎました。エルニーニョ現象により早くも夏の猛暑がやってきて、異常気象が常態化して異常とは言えなくなっているように感じます。新型コロナウイルス感染症は第9波がじわじわやってきているようですが、これ以上高い波にならずに終わることを願っています。やっと学会や海外旅行にも行けるようになり、いまさらながら、感染症が人類に及ぼす影響の大きさを実感させられたこの数年でした。

さて、本号の特集は「小児予防救急——病気やケガを未然に防ぐ仕組みづくり」です。予防救急とは聞き慣れない言葉ですが、成人医学や漢方という「未病」で、病気や事故が起こる前に、なんとか方策をしようということです。

そもそも小児科学とは従来から予防医学だったことが「小児予防救急——新しい概念の始造」の項で述べられています。「そもそも「予防救急」とは何か」の項では、具体的に小児予防救急について解説いただきました。「傷害予防（事故予防）」では事故予防について概説いただき、「小児救急の現場を守るワクチン」の項では、小児科医がやってきたワクチン接種も予防救急だったのだと気づかされます。「乳幼児突然死症候群（SIDS）の防止」の項では、SIDSの具体的な予防方策が述べられています。「予期せぬ乳児突然死（SUID）の防止」の項では、乳児の死亡例の原因究明のシステム作りの重要性が説かれています。「自殺防止」の項では、小児の自殺防止のために自殺念慮のスクリーニング法が紹介され、

また丁寧な診察が重要であることを強調されています。「子ども虐待への対応」の項では、虐待の発見の方法やその後の対処について具体的に述べられています。「子ども虐待と家族からの分離・保護がもたらす“あいまいな喪失”」の項では、子どもの虐待（ネグレクト）における小児の「あいまいな喪失」によるトラウマについて語られています。「#8000, #7119, こどもの救急オンライン」の項では、119番通報に至る前の電話相談システムについて述べられています。「次世代の0.5次救急と小児予防救急」の項では、オンラインでの医療相談について紹介されています。「Child Death Review（CDR）事業と予防小児救急」の項では、CDRの重要性、またCDRモデル事業が実際に現在立ち上がっていることなどが紹介されています。「Bright Futures」の項では、米国小児科学会や母子保険局が主導してできた小児の予防医療の指針、すなわちBright Futuresについて紹介されています。

特集以外にも、Down症児の眼科的管理についての総説、トピックス、「実例でわかる 臨床研究入門」の連載が載っています。「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科学教室から感染症に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、日常診療に役立つ内容になっていますので、ご一読下さいますようお願いいたします。

（中西 敏雄）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第64巻 第7号 7月号

2023年7月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,190円（本体2,900円＋税10%）

年間購読料金

定価48,950円（本体44,500円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。